

ヨハネの福音書 (45)
「友とされた者の生き方」
ヨハ 15 : 11～17

1. 文脈の確認

(3) イエスの私的奉仕 (13 : 1～17 : 26)

①最後の晩餐 (13 : 1～30)

②階上の間の説教 (13 : 31～16 : 33)

*ぶどうの木にとどまる人生 (15 : 1～10)

*友とされた者の生き方 (15 : 11～17)

2. 注目すべき点

(1) イエスは私たちを友として選んでくださった。

(2) 3つの命令が与えられた。

「愛にとどまること」、「互いに愛し合うこと」、「実を結ぶこと」

3. アウトライン

(1) 喜びに満たされた人生 (11 節)

(2) 互いに愛し合う人生 (12～14 節)

(3) 友と呼ばれる人生 (15 節)

(4) 実を結ぶ人生 (16～17 節)

4. 結論：今日の信者への適用

友とされた者の生き方について学ぶ

I. 喜びに満たされた人生 (11 節)

1. 11 節

Joh 15:11 わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。

(1) 「これらのこと」 (15 : 1～10)

①ぶどうの木と枝のたとえ

②イエスの愛にとどまる。

(2) それを話した目的は、弟子たちが喜びに満たされるためである。

①イエスの喜びは、父なる神への従順から生まれたものである。

* イエスは、十字架を忍び、神の御座の右に着座された (ヘブ 12 : 2)。

③ 弟子たちは、イエスへの従順によって喜びを体験する。

④ 人間が神に対して従順になれば、神が喜びで満たしてくださる。

(3) 受難前夜に「喜びに満たされる」というテーマが取り上げられた。

① 「イエスの喜び」は、状況に左右されないものである。

② 3 種類の「喜びの源」

* ユダヤ人たちは、律法の義を求める。

* この世は、神を排除することで喜びを得ようとする。

* クリスチャンは、イエスとの親密な交わりによって喜びに満たされる。

II. 互いに愛し合う人生 (12~14 節)

1. 12~13 節

Joh 15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

Joh 15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

(1) 「わたしの戒め」とは、互いに愛し合うことである。

① 愛し続けることである。

② 信者は、互いのことを心にかけ、互いの徳を立てることによって成長する。

③ この戒めの新しい要素は、「わたしがあなたがたを愛したように」である。

④ ヨハ 13 : 34

Joh 13:34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

⑤ イエスの愛は、単に感情的なものではなく、歴史的事実である。

(2) イエスの愛は、友のためにいのちを捨てる愛である。

① ギリシア・ローマ世界では、友のために死ぬのは英雄物語である。

② ユダヤ教では、隣人のいのちよりも自分のいのちが大切だと教える。

③ イエスの自己犠牲の愛は、ユダヤ教を超越したものである。

④ この話をした直後に、イエスは十字架に向かう。

(3) イエスは信者に、友のために死ぬことを要求しているわけではない。

① もしそれが御心なら、その時に力が与えられる。

② 私たちへの適用は、自己犠牲の愛の実践である。

- *時間を取って話を聞くこと
- *経済的な面も含めて援助すること
- *励ますこと
- *祈りで支えること

- ③自己犠牲の愛は、聖霊の助けによって可能となる。
- ④愛し合うことは単なる感情ではなく、実際の行動である。

2. 14 節

Joh 15:14 わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。

(15 節で、この節を含めて解説します)

III. 友と呼ばれる人生 (15 節)

1. 15 節

Joh 15:15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

- (1) 弟子たちは、「しもべ」から「友」に移行する。
 - ①しもべの関心事は、主人の命令に注意を払い、それを実行することである。
 - ②しもべと主人の間には、深い心の交流はない。
 - ③しもべは、主人の内面を知らなくても、仕事を行うことができる。
 - ④これまでの弟子たちの状態は、「しもべ」であった。
- (2) 弟子たちが「友」と呼ばれる理由は何か。
 - ①イエスは、父から聞いたことをみな彼らに知らせたからである。
 - *隠されていたものを開示した。
 - ②イエスと弟子たちの間には、深い心の交流がある。
 - *「友」とは、愛し合う者同士であり、信頼と対等さを保持する者同士。
- (3) 関係の質が、「命令と服従」から「信頼と共有」へと変化した。
 - ①命令に盲目的に従うだけの者ではなく、神のご計画の共同執行者となった。
 - ②「友」ということばには、「契約の友 (ḥabīb)」の概念がある。
 - *契約的忠実さと信頼関係に基づく親密な結びつきを表す。
 - *アブラハムは、「神の友」(ヤコ 2 : 23) と呼ばれた。
 - ・神の計画を知らされ、それに参与する存在
 - *ダビデとヨナタンは、「契約の友」(1 サム 18 : 1~4) であった。

・生死をかけた相互の契約関係

(4)「契約の友」とは、神とともに歩み、神の心を知り、神の計画に参加する者。

①教会の役割は、御心を知り、それを世に伝える「友としての証人」となること。

IV. 実を結ぶ人生 (16~17 節)

1. 16~17 節

Joh 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

Joh 15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれを、あなたがたに命じます。

(1) イエスが弟子たちを選んだ。

①ユダヤ教の習慣では、弟子が師を選ぶ。

②イエスと弟子たちの関係は、それとは逆である。

③イエスが能動的に彼らを召された。選びの主権の強調がある。

④この選びは、「救いの選び」ではなく、「奉仕と使命の選び」である。

⑤「任命した」は、ギリシア語で「ティセイミ」である。

*英語で「ordain」「appoint」である。

*按手礼は、「ordination」である。

(2) 使命の内容

①「行って」

*命令に従って出て行く。

*イエス・キリストの福音を携えて世界に出て行く。

②「実を結ぶ」

*ヨハ 15 章全体の主題。霊的成果、福音伝道、御霊の実などを含意。

*実を結び続けるということ。

*その実はいつまでも残る。永遠の価値のある成果。

③「わたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださる」

*白紙委任の約束ではない。

*神からの使命を果たすという文脈の中で理解する必要がある。

*父は祈りに応えることによって、弟子たちの使命を全うさせてくださる。

(3) イエスとの友情関係

- ①イエスを愛する者は、兄弟をも愛する。
- ②兄弟愛の実践が、当然の義務としてそこに関わってくる。
- ③一匹狼のクリスチャンは、聖書的ではない。

結論：今日の信者への適用

1. 私たちは、キリストの喜びに満ちる者として召されている。
 - (1) 信仰生活は、苦行ではなく、キリストの喜びに満ちる生き方である。
 - (2) この「喜び」は、神との交わりと従順から生まれる満たされた喜びである。
 - (3) 感情や環境に振り回されるのではなく、「主の喜び」に根ざす人生を目指そう。
2. 私たちは、犠牲的愛（アガペー）を実行するように召されている。
 - (1) 「自分が受けたいように」ではなく、「主が愛されたように」愛する。
 - (2) 教会の一致と証しの力は、この「互いの愛」に根ざしている。
 - (3) 自分の権利・快適さ・プライドを捨てて他者を生かすことに召されている。
3. 私たちは、イエスの「友」として召されている。
 - (1) イエスが私たちを「友」と呼ばれるのは、親密な関係と啓示の共有に基づいている。
 - (2) 神のご計画を知り、それに参与する者として、「友」としての自覚を持つべき。
 - (3) 単なる従順ではなく、「主の心を知った上での従順」こそ、友としての歩み。
4. 私たちは、イエスによって選ばれた者として召されている。
 - (1) 私たちは、目的をもって選ばれた。
 - (2) 「実を結び、それが残る」は、信仰の実践、福音の証し、弟子訓練などを含む。
 - (3) 自分の存在と行動が、永遠の視点に根ざしているかどうかを問うべきである。